

平成23年12月1日

平成23年度人材委員会活動報告（中間報告）

1. 会議開催状況

(1) 人材委員会

(第1回)

日時：平成23年8月25日（木） 15:00～16:40

場所：東京大学附属図書館3階大会議室

議題：

- ・平成23年度人材委員会の体制について
- ・人材育成事業グループの活動について
- ・人事政策デザイン・グループの活動について

(2) 人材委員会小委員会

1) 人材育成事業グループ

(第1回)

日時：平成23年8月25日（木） 13:00～15:00

場所：東京大学附属図書館2階小会議室

議題：

- ・平成23年度人材育成事業グループの活動について
- ・課題と担当について

(第2回)

日時：平成23年11月8日（火） 14:00～17:00

場所：東京大学附属図書館1階第3会議室

議題：

- ・第8回（平成24年度）マネジメント・セミナーについて
- ・海外派遣事業の成果報告会について
- ・研修情報発信ウェブサイトについて

2) 人事政策デザイン・グループ

(第1回)

日時：平成23年8月25日（木） 13:00～15:00

場所：東京大学附属図書館3階大会議室

議題：

- ・平成23年度人事政策デザイン・グループの活動について
- ・課題と担当について

2. 活動成果

- (1) 第7回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー
テーマ：「変革の中で大学図書館の戦略的方向を探る」
日 時：平成23年6月17日（金）9：00～12：00
場 所：グランドプリンスホテル広島2階メインバンケットホール「瀬戸内」
受講者数：201名（87機関）
- (2) 平成23年度海外派遣事業の実施
海外派遣者の選考結果に基づき、短期：4件5名を派遣することとした。
（選考結果については、第58回総会にて報告済み）

3. 今後の予定・検討事項

- (1) 人材育成事業グループ検討事項
 - ・第8回国立大学図書館協会マネジメント・セミナーについて
 - ・海外派遣事業の成果報告会について
 - ・平成24年度海外派遣事業の実施について
 - ・研修情報発信ウェブサイトについて
- (2) 人事政策デザイン・グループ検討事項
 - ・人事政策課題について

第7回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー 開催報告書(案)

平成 23 年 9 月 15 日
人 材 委 員 会

1. テーマ

「変革の中で大学図書館の戦略的方向を探る」

2. 日時

平成 23 年 6 月 17 日(金) 9:00～12:00

3. 場所

グランドプリンスホテル広島 2 階メインバンケットホール「瀬戸内」(広島市南区元宇品 23-1)

4. 受講者数

館長・副館長級	68 機関	69 名
部長級	36 機関	36 名
課長級	82 機関	91 名
その他	2 機関	5 名
合計	(重複を除く) 87 機関	201 名

※その他：文部科学省、国立情報学研究所学術基盤推進部

5. プログラム (別紙 1「講演及びオープン・ディスカッション概要」参照)

	司会：片山 俊治 (人材委員会／東北大学附属図書館事務部長)
9:00～ 9:10	開会 挨拶：野家 啓一 (人材委員会委員長／東北大学附属図書館長)
9:10～10:20	講演「学術情報流通の変容と今後の大学図書館のあり方」 倉田 敬子 (慶應義塾大学文学部教授、科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会専門委員)
10:20～10:35	休憩
10:35～11:05	人材委員会報告「図書館職員の人事政策課題について」 石井 道悦 (大阪大学附属図書館事務部長)
11:05～11:50	オープン・ディスカッション 「変革の中で大学図書館の戦略的方向を探るために」 コーディネータ：竹内 比呂也 (千葉大学附属図書館長) コメンテータ：倉田 敬子、石井 道悦
11:50～12:00	まとめ・閉会

6. 受講者アンケート結果 (別紙 2「アンケート集計結果報告」参照)

回答者：142名(受講者201名中) 回答率：70.6%

7. 収支決算

予算		決算		予算との差異
協会費	250,000 円	マネセミ支出額	455,084 円	△205,084 円

内訳及び前年(第6回)との比較

第6回支出	金額	第7回支出	金額
会場使用料(サ込)	171,600	会場使用料(サ込)	165,000
控室使用料(館長フォーラムと折半、サ込)	8,580	控室使用料	0
附帯設備使用料(プロジェクタ等)	75,000	附帯設備使用料(マイク、スクリーン等)	103,500
立て看板(館長フォーラムと折半)	11,500	吊り看板	36,000
消費税	13,334	消費税	15,225
会場費計	280,014	会場費計	319,725
講師旅費	84,710	講師旅費	55,700
講師謝金	36,000	講師謝金	36,000
講師経費計	120,710	講師経費計	91,700
受講者用飲料(140本)	14,490	講師・受講者用飲料(210本、サ税込)	43,659
配付資料印刷費	0	配付資料印刷費	0
講師事前打合せ関係(5/21 東京にて)	0	講師事前打合せ関係(5/13 東京にて)	0
その他計	14,490	その他計	43,659
合計	415,214	合計	455,084

8. 運営スタッフ

人材委員会	東北大学附属図書館 事務部長	片山 俊治
	東北大学附属図書館 情報サービス課長	小陳 左和子
	お茶の水女子大学附属図書館 図書・情報チームリーダー	江川 和子
	千葉大学附属図書館 学術情報課長	島 文子
	神戸大学附属図書館 情報管理課長	稲葉 洋子
	香川大学図書館 情報図書グループリーダー	北條 充敏
	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課コンテンツチーム副課長	細川 聖二
総会当番館 (協力)	広島大学社会連携・広報・情報室 学術情報整備グループ専門員	畑野 繁人
	広島大学社会連携・広報・情報室 図書学術情報企画グループ主査(企画調整主担当)	尾崎 文代
	広島大学社会連携・広報・情報室 図書学術情報企画グループ主査(学術情報システム企画主担当)	萱野 靖子

以上

第7回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー
講演・人材委員会報告及びオープン・ディスカッション概要

〔平成 23 年 6 月 17 日（金）9:00～12:00 於 グランドプリンス広島 2 階メインバンケットホール「瀬戸内」〕

1. 講演「学術情報流通の変容と今後の大学図書館のあり方」

倉田 敬子(慶應義塾大学文学部教授、科学技術・学術審議会学術分科会
研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会専門委員)

はじめに、現在、大学を巡る環境変化を背景に「大学」そのものへの問い直しが行われていること、大学図書館においては、その基本理念である「教育研究活動の支援」という役割は変わらないが、情報源の変容（電子化）により、「情報源と利用者をつなぐ」という図書館機能を実現するための手段に変化が生じていることの指摘があった。

続いて、学術情報の電子化について、電子ジャーナルが急激に普及したメカニズムの解説、および新たな潮流として、未来の論文、オープンアクセス、e-Research の動向等の紹介があった。

最後に、電子化のさらなる進展の下での大学図書館の将来像として、1) 印刷物の書庫としての図書館、2) 学習支援センターとしての図書館、3) 知の基盤としての図書館、という3つのシナリオが示された。現実的には、この3つがブレンドされた形をとるだろうが、そこでは、従来の図書館員の枠では収まりきらない人材や、個々の大学で優先される戦略的な目標や計画に対応した多様な人材が求められることとなる。このとき、図書館員としての共通基盤が維持できるのか、という問題提起がなされた。

2. 人材委員会報告「図書館職員の人事政策課題について」

石井 道悦(大阪大学附属図書館事務部長)

人材委員会が実施した「図書館組織及び人事政策に関するアンケート調査」(平成 22 年 1 月)の結果から会員館の意見分布の紹介があった。

続いて、「大学図書館の整備について(審議のまとめ)」(平成 22 年 12 月)および「図書館員の人事政策課題について」(平成 23 年 3 月)に対する会員館の自由記述意見を、1) 求められる専門性、2) キャリアパスの形成の枠組、3) 流動性の確保、の3つの論点に整理した上で、その概要について報告があった。

最後に、「図書館員の人事政策課題について」の中で提案した行動計画のうち、会員館から賛同意見が多かった国立大学法人等職員採用図書系専門試験の地区および全国レベルでの情報共有・交換の活性化について、具体的な取り組みを進める旨の報告がなされた。

3. オープン・ディスカッション「変革の中で大学図書館の戦略的方向を探るために」

コーディネータ: 竹内 比呂也(千葉大学附属図書館長)

コメンテータ: 倉田 敬子

石井 道悦

最初に倉田教授の講演に対する質疑応答があり、電子化に対する日本の学協会の対応や著者としての研究者の関わり等について質問が寄せられた。その後、コーディネータの進行のもと、参加者との質疑応答を通して次のような意見交換を行い、参加者にとって大学

図書館の課題と方向性について知見を広めることができた。

(意見の概要)

- ・ 国立大学では変革に対する共通理解があることが強みではないか。私立大学は大学間の格差がきわめて大きく、大多数の図書館は目先の課題で手一杯で5年先の課題まで目がいかない。
- ・ 国立大学では図書館間の人事交流があるのはよいこと。私立大学では全学的な人事交流があり、いろいろな業務を経験することでゼネラリストとしてキャリアアップがはかれる。一方でスペシャリストとしては、あまり長期に図書館の現場を離れると知識やスキルの再習得が困難になる。
- ・ 逆に国立大学でも、図書館員の枠にとらわれず、学内の職種や部署を超えた人事交流も含めた、多様な専門性の保持について検討する必要があるのではないか。
- ・ 図書館と情報基盤センターとの連携については、単に組織を一緒にするだけではうまくいかないことが多い。まずは、目的・理念の共有が必要であり、そのうえで協力して何を実現できるかを検討すべき。
- ・ 今後、図書館で高度なサービスを提供していくためには、少なくともコアとなる職員には修士以上の学位を取得することを勧めたい。図書館員自身が研究活動を経験することにより、教員と対等な立場で協働し、自信をもってサービスを推進できるようになる。
- ・ 電子ジャーナルがあれば図書館はいらないという議論もあるが、大学教育のあり方がティーチングからラーニングへ変わっていくに伴い、スペースとしての大学図書館も、書庫から学習支援の場として重要性を増していく。
- ・ 図書館員としての共通基盤はあるのかという問題提起について。変革に対する意識を持ち、個々の大学及び大学図書館が何を目標とするのかを見定めることによって、それに向けての人材養成がはじめてなし得る。しかしながら、知識の保存と共有に対する使命感（クレド、信条）は図書館員の共通基盤であり、個別のスキルでなく、このクレドを共有する人材を集めていくことは今後とも図書館としての共通基盤であり続けるだろう。

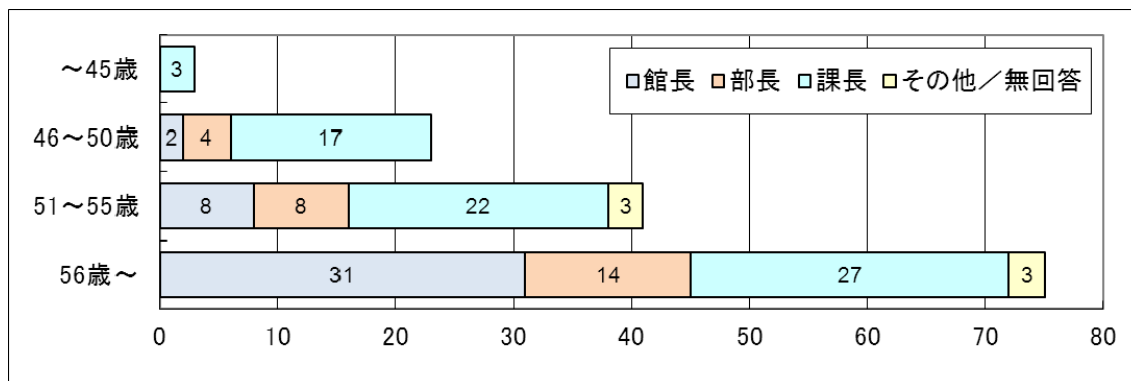
第7回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー アンケート集計結果

〔平成 23 年 6 月 17 日(金)9:00～12:00〕

於 グランドプリンスホテル広島 2 階 メインバンケットホール「瀬戸内」

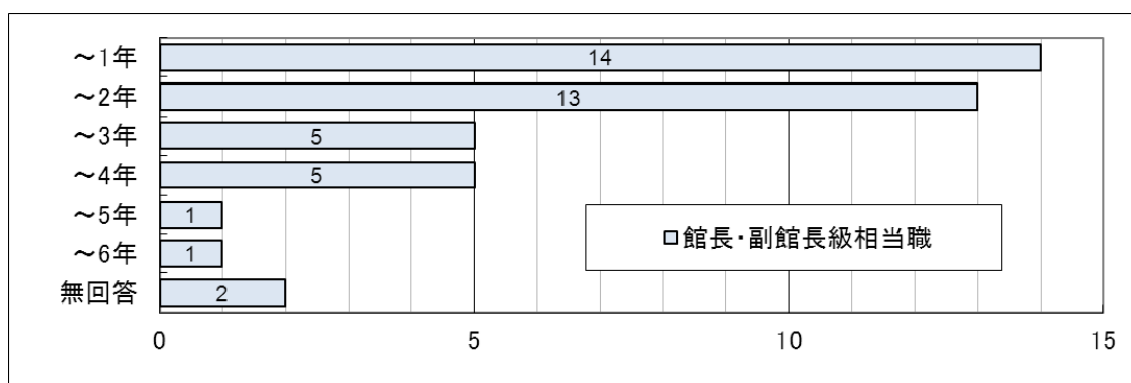
1. 回答数 142名(受講者201名中), 回答率: 70.6 %

2. 年齢



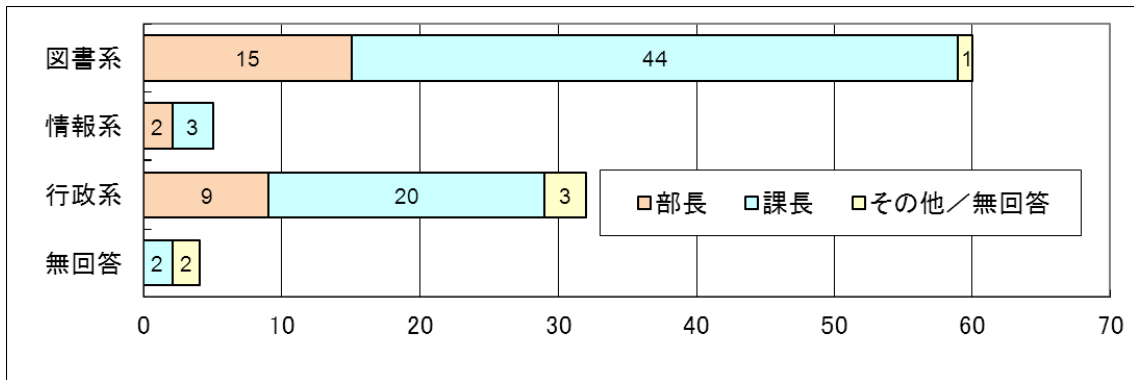
	~45歳	46~50歳	51~55歳	56歳~	合計
館長・副館長級相当職	0	2	8	31	41
部長級相当職	0	4	8	14	26
課長級相当職	3	17	22	27	69
その他/無回答	0	0	3	3	6
合計	3	23	41	75	142

3. 館長・副館長級相当職の経験年数



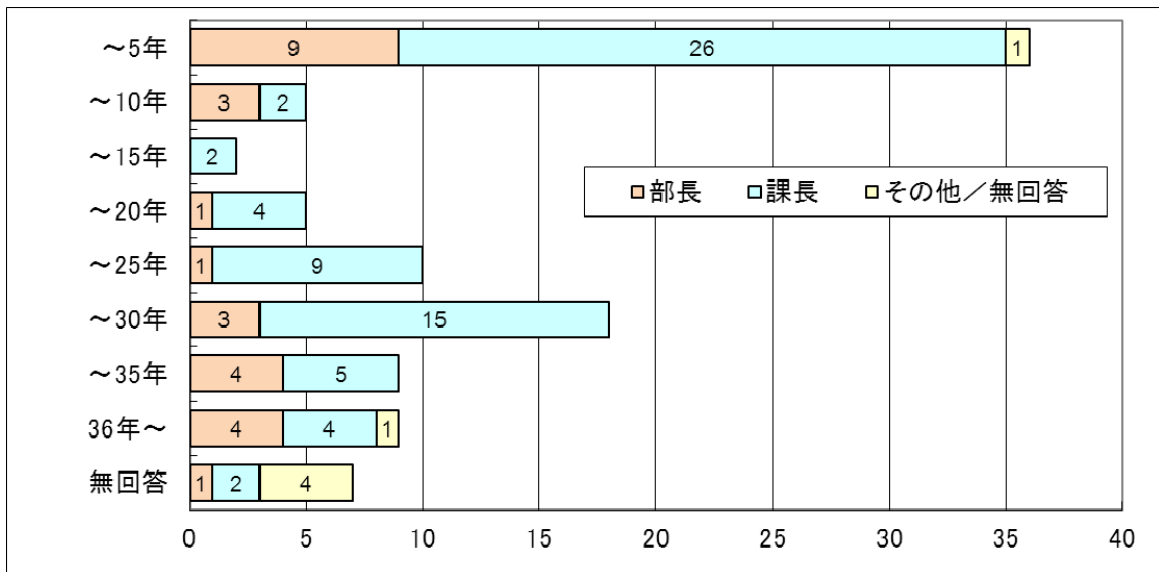
	~1年	~2年	~3年	~4年	~5年	~6年	無回答	合計
館長・副館長級相当職	14	13	5	5	1	1	2	41

4. 事務職の職系



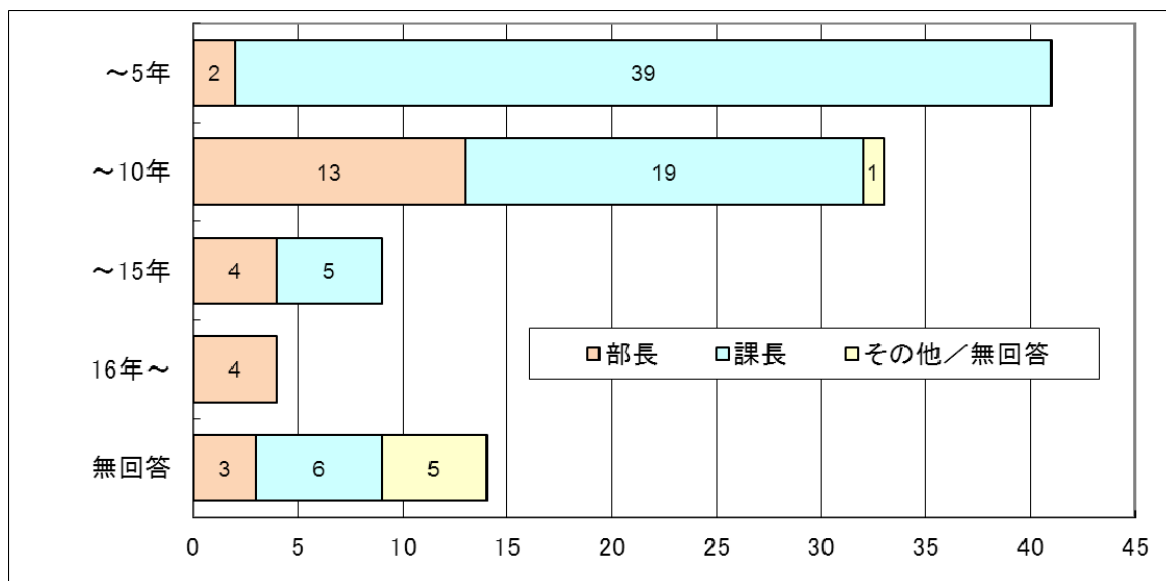
	図書系	情報系	行政系	無回答	合計
部長級相当職	15	2	9	0	26
課長級相当職	44	3	20	2	69
その他/無回答	1	0	3	2	6
合計	60	5	32	4	101

5. 事務職の図書館勤務年数



	~5年	~10年	~15年	~20年	~25年	~30年	~35年	36年~	無回答	合計
部長級	9	3	0	1	1	3	4	4	1	26
課長級	26	2	2	4	9	15	5	4	2	69
その他	1	0	0	0	0	0	0	1	4	6
合計	36	5	2	5	10	18	9	9	7	101

6. 事務職の管理職経験年数

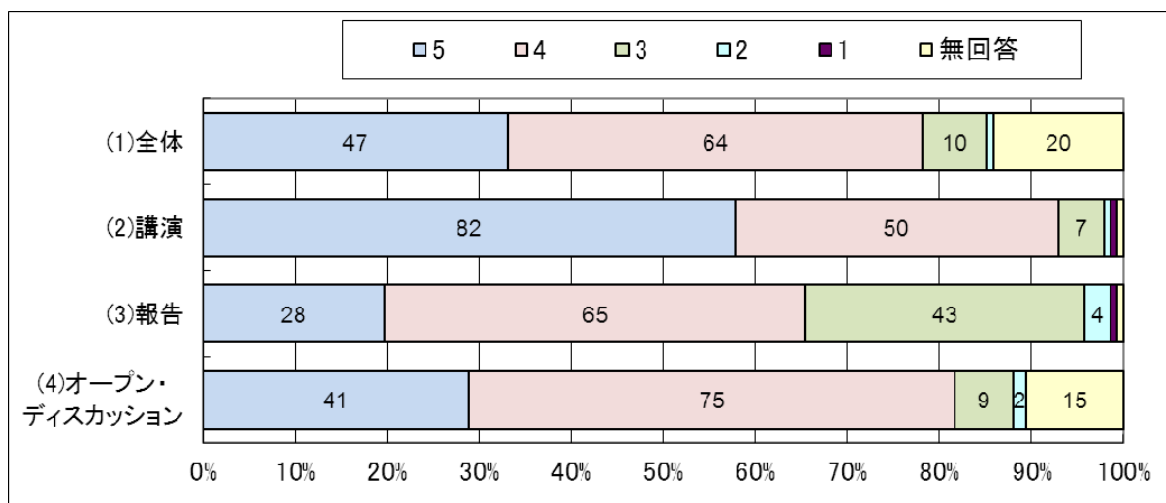


	～5年	～10年	～15年	16年～	無回答	合計
部長級相当職	2	13	4	4	3	26
課長級相当職	39	19	5	0	6	69
その他/無回答	0	1	0	0	5	6
合計	41	33	9	4	14	101

※【参考】

記者数 全 49 名 (館長級:20/41, 部長級:10/26, 課長級:18/69, その他:1/6)

I セミナー全体および各題目が参考になったかどうか



	5:たいへん参考になった	4:参考になった	3:ふつう	2:参考にならなかった	1:全く参考にならなかった	無回答
(1)全体	47	64	10	1	0	20
(2)講演	82	50	7	1	1	1
(3)報告	28	65	43	4	1	1
(4)オープン・ディスカッション	41	75	9	2	0	15
合計	198	254	69	8	2	37

【理由】

※[館]:館長・副館長級相当職, [部]:部長級相当職, [課]:課長級相当職, [無]:役職無回答

(1) セミナー全体

《5:たいへん参考になった》

- ・ 当館のいろいろな問題点を指摘されているようで、身にしみました。「この内容を館員にいかにかに伝えるか」を考えております。[館]
- ・ 組織改革を検討中で、図書館の将来像について方向性のヒントになった。[館]
- ・ もやもやが取れました。[館]
- ・ 本学が抱える問題とよく符合するため。[館]
- ・ 講演、報告、オープン・ディスカッションがうまくかみ合って高いレベルのセミナーとなった。[部]
- ・ 時宜にかなった企画であり、とても参考になった。[部]
- ・ 図書館経験の短い私にとって全てが参考になった。[部]
- ・ 大学図書館の課題が整理され、方向性について示唆に富む内容であった。[部]
- ・ 諸問題の淵源の再確認と方向性の整理が見えてきた気がします。[課]
- ・ 現在の重要な検討事項である、現在の方向性の確認など大変に参考になった。[無]

《4:参考になった》

- ・ 考えるべき論点が明確になり、大変よかった。[館]
- ・ 内容として目新しいことは少なかったが、全体像を提案してもらったのはよかった。[館]
- ・ 館長になって間もない人間にとって、現状を知る上でためになる情報がたくさんあった。[館]
- ・ 図書館におけるEJの扱いに苦労しているが、その背景に大学の戦略との関わり、図書館のその中での立ち位置、できることなどについて考えさせられた。[館]
- ・ 情報の整理に大変役立った。[館]
- ・ 異なった視点からの意見は参考となった。[部]
- ・ 図書館はこれまでも変革してきたし、これからますます変革していく中で、職員構成は大変困難であるがやっていかなければと感じた。[部]

- ・初めて参加したが、思っていたことの再認識ができた。[部]
- ・図書館の業務を担当して日が浅いので、すべてが参考になりました。[部]
- ・今後の大学図書館像・人材育成を考えるにあたり大変参考になりました。[課]
- ・問題意識を共有できた。[課]
- ・法人化以降各図書館が大学の規模ごとで組織の見直しが行われ、多様な意見が出されるようになった。学生支援の重要性が実感されるセミナーであり、狭い視野を拓げ、個人個人が生きがいのある仕事となるような仕組みを考える参考となった。[課]
- ・学術情報流通の変化の中で、図書館(図書館職員)に求められるものの再認識ができた。[課]
- ・今後の運営について非常に参考になりました。[課]
- ・図書館というハードに命を吹き込むのは人。図書館のみせる化のためには人が必要[課]

《3:ふつう》

- ・テーマと発表内容にズレがあると感じた。[部]
- ・図書館職員にそれができるかが問題[課]
- ・少人数でのグループディスカッションがあってもよい。[課]

《無回答》

- ・図書館(職員)についての枠を固定化しない方向性に賛同できた。(倉田先生、オープン・ディスカッション)[館]
- ・実務面でない理念の整理ができる。[課]
- ・研究者が、図書館員に学位が必要、研究を知ることが必要と言われた重みを思った。[課]
- ・人材、スキルの問題が相当深刻であることが分かった。[無]
- ・よくまとまっていた。問題点明確でした。[無]

(2) 講演について

《5:たいへん参考になった》

- ・講演:現状の背景と問題発生のつながりが良く整理されて、理解・納得しやすい内容でした。[館]
- ・御講演の内容は、図書館情報学を修めていない「館長」として、私には貴重でした。[館]
- ・講演:問題が何なのか、目の覚めるようなお話でした。[館]
- ・倉田先生の考え方が明確であり、たいへん参考になった。[館]
- ・講師選定がベストであった。[館]
- ・戦略の確定をkeyterm にしてのクリアな講演であった。重要な指針をいただいたと思う。[館]
- ・講演で大学図書館の将来像を3つ明確に示していただき、とてもクリヤーになった。[館]
- ・学術情報流通、オープンアクセス、大学図書館の問題それぞれがきちんと体系化された講演でした。ありがとうございました。[部]
- ・倉田先生は客観的かつ論理的な思考をされているので、参考になる情報を得ることができた。[部]
- ・倉田講師の講演の中で、「大学図書館の将来像 1～3」は内容的にも示唆に富み大変参考にな

った。[部]

- ・ 講演は、初心者の方も理解できる内容であり、求められている図書館像が明確になった。[課]
- ・ 今後の図書館をとりまく諸課題を広い視野で講演いただき参考になった。[課]
- ・ 倉田先生の講演が大変すばらしく参考になった。[課]
- ・ 倉田先生の講演や回答は歯切れがよく明快で大変よかったです。[課]
- ・ 倉田先生の講演は、頭の中でモヤモヤしていたものをきれいに整理してくれた感じで、大変良かったです。[課]

《4:参考になった》

- ・ 講演は新たな大学図書館の役割の点ではヒントになるものがあったが、一方で役割を終える具体的な話がなかったので、仕事の増感が残った。[部]

《1:全く参考にならなかった》

- ・ 講演:話の99%はほとんどの参加者が共通認識として持っている(いた)と思われる。問題はレジメの最後の1行「規模や目的が類似している図書館間での連携」を如何にして可能ならしめるかである。そのためのヒントが欲しかったが何もなかった。[館]

(3)報告

《5:たいへん参考になった》

- ・ 報告:現状と課題が良く分かりました。ありがとうございます。[館]

《3:ふつう》

- ・ 委員会報告は総会でやるべきでは。[無]

《2:参考にならなかった》

- ・ 報告書の棒読みでは意味がない。[部]
- ・ 報告:せっかく戦略的方向をさぐるうとしていたのに、いきなり人事政策までブレークダウンは残念であった。[課]

《無回答》

- ・ 今回の人材委のアンケート結果などは、本来総会の場で報告、議論すべきである。[部]

(4)オープン・ディスカッション

《4:参考になった》

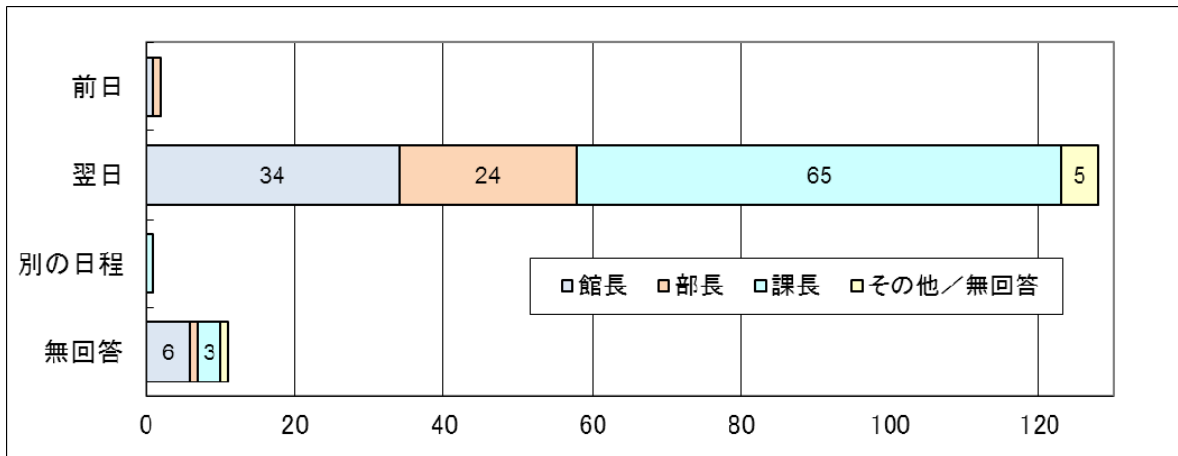
- ・ コメンテータの回答が適切でよく理解できた。[課]
- ・ 講演・報告の性質からして一般論に終始することになるが、オープン・ディスカッションでは具体例への質疑応答があり、参考になった。[課]
- ・ オープン・ディスカッションの時間をもう少し長くとってもいいのではないか。[課]

《無回答》

- ・ オープン・ディスカッション良かったです。[課]

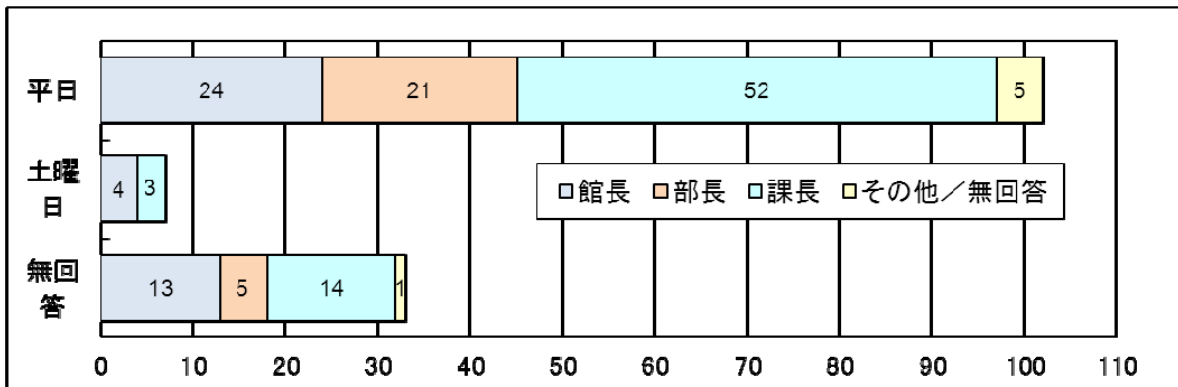
Ⅱ セミナーの開催時期について(国立大学図書館協会総会との関連)

(1)開催時期



	前日	翌日	別の日程	無回答	合計
館長・副館長級相当職	1	34	0	6	41
部長級相当職	1	24	0	1	26
課長級相当職	0	65	1	3	69
その他/無回答	0	5	0	1	6
合計	2	128	1	11	142

(2)開催する曜日



	平日	土曜日	無回答	合計
館長・副館長級相当職	24	4	13	41
部長級相当職	21	0	5	26
課長級相当職	52	3	14	69
その他/無回答	5	0	1	6
合計	102	7	33	142

【理由】

※[館]館長・副館長級相当職[部]:部長級相当職,[課]:課長級相当職,[無]:役職無回答

《開催時期:総会の前日がよい》

- ・ 総会終了で全体の終了としたほうがよいと思われます。[館]

《開催時期:総会の翌日がよい》

- ・ 総会とセミナーは出張費用等を考慮して同一時期が良い。最終日は午前中に終了すれば帰れる。交通アクセスのよい場所を会場にして欲しい。プリンスホテル広島はよいホテルでしたが、アクセスが不便すぎ。[館]
- ・ 計画を立てやすい。[館]
- ・ 総会とセットがベター。暑い季節と梅雨の時期をはずした時季に。[部]
- ・ 効率が良い。[部]
- ・ 現行を希望します。[部]
- ・ 現状(今回日程)でよい。[部]
- ・ 事実上総会と一体化して実施したほうが良い。[部]
- ・ 現行どおりでよい。[課]
- ・ 現状でよい。[課]
- ・ 今年の日程でいいと思います。[課]
- ・ 遠方から参加する場合は総会翌日が都合が良い。[課]
- ・ 現状でよい。[課]

《開催時期:無回答》

- ・ いずれでもよい。[課]

《開催曜日:平日》

- ・ 理事の職務上、週末は多忙なことが多いため。[館]
- ・ 木、金で開催する今回のスケジュールを希望します。[部]
- ・ 金曜日[課]

《開催曜日:土曜日》

- ・ 平日は公務がある。[館]
- ・ 総会とセミナーで平日を2日使うのは時間的にもったいない。[課]

Ⅲ 今後のセミナーで希望するテーマ

※[館]:館長・副館長級相当職,[部]:部長級相当職,[課]:課長級相当職,[無]:役職無回答

- ・ 図書館職員の教育的役割、図書館職員の育成の方法[館]
- ・ 図書館の機能分化[館]

- ・世界の図書館事情[館]
- ・図書館の連携について、地域の連携[館]
- ・旧帝大系のような大規模かつ資金潤沢な大学ではなく、小規模単科大学に焦点を絞った具体的アドバイス[館]
- ・引き続き「大学図書館のあり方」及び人材育成と運営方針[館]
- ・日頃の企画運営ありがとうございます。大学における図書館および図書館員の役割や将来像に係るテーマにてお願いしたい。[部]
- ・図書館に公文書館的役割を持たせることができるか？[部]
- ・各大学の事例、取組などの紹介(短時間で)があってもいいのではないのでしょうか。(自分が知らないだけかも知れませんが)[部]
- ・大学図書館の国際化[部]
- ・人材委員会が主催するのであれば、アンケート調査を実施し報告するだけでなく、必要とされる人材は何かを定め、具体的に議論しなければ前に進まないと思う。[課]
- ・図書系職員の人材育成方法(大学職員の中での位置付けを念頭に)[課]
- ・大学における図書館の役割[課]
- ・「危機管理」-防災、情報セキュリティ、法律等[課]
- ・各大学における図書館職員の位置付けの確立[課]
- ・図書館の外注化は本当に可能か。[課]
- ・知の基盤としての図書館の重要性を国民全体に知ってもらうための方策について(全国民から愛される図書館のあり方)[課]
- ・総会と切り離すことで、概論的なものだけでなく、特定のスキル等に関するセミナーを開催できるのではないのでしょうか。[課]
- ・アジアの大学図書館の現状[課]
- ・学内での他部局との連携事例の紹介[課]
- ・地方中小大学の職員の活性化について。[課]
- ・図書館職員のスキルアップ、研修[課]
- ・正面から「大学図書館長論」を取り上げてほしい。なぜ素人なのか、なぜ教授なのか、キャリアパスは？[課]
- ・情報基盤センター等との協力及び役割分担[課]
- ・学内での図書館の地位向上[課]
- ・図書館の位置づけ、役割、ミッション[課]
- ・電子ジャーナルが普及していることから、関係する出版社の人に説明なり、講演をお願いしてもいいのではと思います。[課]
- ・大学の幹部教員である図書館長が参加しているセミナーなので、大学の教育研究医療の将来像の中で図書館という装置をいかに位置づけるかという議論が必要だろう。[課]
- ・より具体的、実践的な内容を期待します。[課]

- ・ 具体的に取り組むことの提言、成果[課]
- ・ 私立大学の人事政策(図書館職員の育成)[無]

IV セミナーの感想、希望、意見等

※[館]:館長・副館長級相当職, [部]:部長級相当職, [課]:課長級相当職, [無]:役職無回答

- ・ 大学図書館の戦略的方向、将来像について、貴重な情報を得ることができた。[館]
- ・ 同じテーマについて、似通った立場にある大学図書館でグループを分けて議論できる場が必要ではないか。[館]
- ・ 質問を取り上げてくださりありがとうございました。[館]
- ・ とてもわかりやすかった。[館]
- ・ 館長どうしの交流の場が少しは必要かと。[館]
- ・ ありがとうございました。[館]
- ・ 非常にためになる内容で勉強になりました。今後の館の運営に役立てたいと思います。ありがとうございました。[館]
- ・ 新米館長として様々な知見を得ることができました。[館]
- ・ 大変なご準備ありがとうございました。[館]
- ・ とても良かった。[館]
- ・ いつもながら見事な運営でした。[部]
- ・ 本セミナーだけは参加したいと希望される館長先生は多い。今後の成長を期待します。[部]
- ・ ありがとうございました。[部]
- ・ 総会の課題などは大学の学長(理事)に話はあがっているのだろうか。館長、管理職が随時適切に学内で対処する必要があると思われる。[部]
- ・ 大変参考になりました。[部]
- ・ 一般論に押し下げて視野を広く持てた。[課]
- ・ 有意義なセミナーをありがとうございました。[課]
- ・ 大変参考になりました。[課]
- ・ 館長の出席は2・3年に1回ぐらいでいいのでは、むしろ係長の出席がいい。[課]
- ・ 非常に有意義な会であった。可能であれば同様なセミナーを40～50代の図書館職員を対象に行ってほしい。現場の意識改革のきっかけとなるような会を望みます。[課]
- ・ 自分の中の問題点の整理に有益な内容だった。[課]
- ・ 総会の開始時間を13:00にしてほしい。また、全体の時間を短縮することはできないか。18:30は長すぎます。[課]
- ・ 酒を飲むだけではないでしょうか。[課]
- ・ 広大の皆様お世話になりました。[課]

以上